

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090400266		
法人名	介護センターななくさ株式会社		
事業所名	グループホームななくさ伊勢崎美茂呂		
所在地	〒372-0037 群馬県伊勢崎市美茂呂町3973-3		
自己評価作成日	令和2年1月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和2年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちよく生活して頂けるよう季節ごとに空間を演出している。 ・塗り絵やパズルを好む利用者様が多いため、種類を多く揃えている。 ・利用者の尊厳を尊重しながら支援している。 ・配食サービスを利用しているので、食事のメニューが充実している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者の変更が昨年の7月に行われ、管理者は様々な取り組みについて見直し、改善を図り、利用者が楽しく生活できる環境づくりを意欲的に職員と協力して実践している。そうしたなか、管理者は日頃から職員の意見や提案を受けて、利用者の状況に合わせて勤務時間の変更や入浴時間を午後から午前・午後に分けたり、通院が困難になってきたので、訪問診察に変更したりなど業務改善を行い、運営推進会議にも詳細に報告し、質問や意見等をいただいている。グループホームの理念は以前からのものを引き継ぎ、自宅で過ごす1日と同じようにその人らしく、穏やかに暮らせるように日々実践している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員との話し合いのもと、理念をつくり共有している。また、それを玄関に掲示し、来所者にも知って頂けるようにしている。	自宅で過ごす1日と同じように、その人らしい暮らしを支援するという理念を5項目に表示し、会議の時に具体的なケアとして振り返り、理念が実践に反映されているかを確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して習作展へ作品を出品したり、近所の商店を利用したり、交流を図っている。また、散歩の際、近所の方と挨拶を交わしている。	徘徊している人を発見した地域の方が、事業所を知っており、事業所に連れて来てくれたことがあった(結果、他の施設の入居者と判明した)。地域住民にとっては事業所が認知症の専門機関としての認識が定着している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来た方や問い合わせ等で相談があれば対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、ご家族様・区長・民生委員・市職員に参加して頂き、状況報告や課題を相談し、意見等を伺いサービス向上に努めている。	昨年7月管理者の変更に伴い、事業所運営について見直し改善点について報告している。民生委員より9月11日の台風時(避難勧告)の対応について質問があり、指定避難所への移動困難の状況や対応、また福祉避難所確保の必要性を伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設の空き情報を毎月報告してる。介護保険課や包括支援センターなどに出向いた際、施設の状況や取り組んでいる内容等を報告し協力関係を築けるよう努める。	運営推進会議には、介護保険課や包括支援センター職員に参加して頂いている。介護保険点数算定の不明点などわからない事を教えていただいている。生活保護受給者の件では、社会福祉課と連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを作成し、勉強会を定期的に行い拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体的拘束等適正化のための指針を作成し、社内会議にて勉強会を開催している。現在、一人で買い物に出たがる利用者があるので、カンファレンスにて職員体制が手薄の時には玄関を施錠することになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内会議等で、虐待の事例を取り上げ、注意を促し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等の参加を促し、制度のついて学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を読みながら説明し、理解・納得して頂いてから契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱設置している。 家族来所時に近状報告し、ご意見要望を伺うようにしている。	運営推進会議や家族面会時に、運営についての報告や利用者の状況を管理者をはじめ、スタッフが積極的に伝えている。また、意見や要望等あれば、何でも言ってほしい旨を話しているが、要望等は聞かれない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、職員からの意見や提案を受け、業務改善に取り組んでいる。	代表者や管理者は、トイレの洗面所が狭く、車椅子での出入りが大変との提案を受け、戸を外して防災のカーテンを付けたり、脱衣所に手すりを設置したり、広過ぎる浴槽内に手すりを設置したりなど、職員意見を聞いて環境整備を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	採用時、勤務に関する要望を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受けられるよう整備している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に所属し、他の事業所との交流や研修の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の話をよく聞き、安心して過ごして頂けるよう関りを多く持ち、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の話をよく聞き、要望があればサービスに導入し信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始前後、ご本人様の状況等をよく見極め、入所が妥当か他のサービス利用もいいのか慎重に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる範囲で日常生活における家事等の手伝いを職員と一緒にさせて頂き、共に生活する環境を整えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子を伝えたり、面会を促し現状を知って頂き、より良い関係が築いて行けるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を促したり、ご家族様と外出して頂いたりして、馴染みの人との関係が継続できるよう支援している。	入居前に利用していた通所介護の職員や介護支援専門員の面会があったり、週に1回利用者と外出し、食事や通院に同行して下さる家族がいる。事業所は馴染みの人の面会を歓迎し、関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様一人ひとりの性格や状況など配慮しながら、職員が間に入り良好な関係が築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもこれまでの関係性を大切にし、必要に応じて相談や支援に努めて行く方針である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時のアセスメントや日常会話等から要望を把握し希望に添えるように支援している。	入居時のアセスメントや日頃の観察から、利用者の思いや意向の把握をしている。調理師の資格があり調理が好きだった利用者には、食材を切ってもらうなど、できる範囲で役割をもっていただき、生き甲斐につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントや日常会話、面会時家族から話を聞いて生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態や会話など気付いたことを個別に記録し、日々の様子や状態の変化など把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態や会話から気付いたことなど会議で話し合い家族の意見なども参考に3ヶ月毎介護計画を作成している。	介護計画は、3ヶ月毎に家族の同意を得て交付している。計画作成担当者は包括的自立支援プログラムを使って、毎月ケアチェック表の記入やモニタリングを行い、サービス担当者会議録も作成している。利用者の個人ファイルに、サービス計画書をファイルしている。	日々の記録と介護計画のむすびつきが弱いので、介護計画の位置づけを職員間で再確認する機会づくりから、連動した記録につながることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や会話などから気付いたことを個別に記録して職員間で情報を共有している。また、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援や通院支援などニーズに合わせて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の学校行事の見学や警察・消防署等への協力要請を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の支援がある方はかかりつけ医に受診しているが、殆どの方が往診の先生にお願いしている。医師と連携を図り、家族に連絡して適切な医療が受けられるよう支援している。	精神科受診をされている利用者以外の方は、受診に連れていくことが困難になってきたため、昨年の10月から協力医療機関の変更を行ない、月に1回訪問診察を受けている。また、週に1回、訪問看護師に來訪していただき、健康管理と医師への連絡を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携し、日頃の健康管理、緊急時の対応を依頼している。医療機関への連絡も行って頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関及び訪問看護と連携をとり、早期退院や退院後の治療を行えるように体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	週末期の指針を重要事項説明書に記載しており、契約時に説明し、状況判断しながら家族と話し合いを行い、医師や訪問看護の方と連携しながら事業所で支援に取り組んでいる。	痰吸引等医療行為が必要でない方については、本人・家族の希望で医師と相談し、事業所で最期を迎えることが可能である。今年亡くなられた方は病院での治療を希望されず、訪問看護師の毎日の訪問を受け、職員はターミナル期の援助を支援した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置マニュアルを作成し、社内会議等で確認を行っている。また、訪問看護と連携し緊急時の対応を依頼している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜それぞれの設定で避難訓練を実施。1回は消防署の立ち合いをお願いしている。近くに住んでいる家族の協力はあるもの地域住民の協力は得られていない。運営推進会議等で呼びかけは行い協力体制を築けるよう努力はしている。	今年度は、2回避難訓練を行った。地域住民や区長にも参加を呼び掛け、家族の協力が1名得られた。9月の運営推進会議では災害について意見交換を行い、水害について市の研修を受け、「洪水時の避難確保計画」を作成したことを伝えている。	災害時に避難できるよう、地域の協力体制について引き続き検討されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室に洗面台があり、口腔ケアや身だしなみ等の個別援助を行いプライバシーの確保を実施している。	各居室に洗面台を設置し、口腔ケアや身だしなみに注意し、一人ひとりの尊重とプライバシーの確保をしている。トイレ誘導時はトイレという言葉は使わずに、「日本橋まで行きましょう」等声かけしている。希望を聞きながら職員が白髪染めを行っているので、利用者が若々しく感じられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を伺いながら利用者様がやりたいことができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分を考慮し、一人ひとりのペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に聞きながら衣類選んだり、ご希望の方には、白髪染めを行ったりおしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	カレーやけんちん汁など作る際、皮むきや味付けをお願いしている。 食べ終わると食器をカウンターまで持ってきて「ご馳走様でした」と片付けてくれる方もいる。	ご飯、みそ汁は事業所で用意するが、副食は3食とも敷地内にある法人の高齢者専門宅配弁当を取って、複数の器に盛り付け提供している。利用者が希望するカレー、うどん、けんちん汁などを作る際には、利用者に調理の一部を手伝っていただき、職員も一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事・水分の摂取量を記録して健康管理を行っている。栄養状態の悪い人は医師に相談して栄養ドリンクを処方してもらう。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせて声かけを行い、必要に応じて介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をとり、排泄のパターンを把握し声かけや誘導を行っている。	汚れたものをタンスに入れてしまう利用者に、ポータブルトイレを居室に置くようにし、日中は布パンツで過ごし、夜間のみポータブルトイレを利用して、汚物をタンスに入れなくなった。また、106歳の利用者も日中は職員がトイレ誘導し、車椅子から降りてトイレを利用し、夜間のみおむつ対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	声かけ促し水分を多く取って頂くようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、月・水・金曜日の午後と決まっているが、利用者の状況で午前中に行ったり、入浴日以外の日でも対応はしている。また、入浴時間は一人ひとりの希望に応じて対応している。	入浴は、週3回入れるように支援している。浴槽が深く広いので、浴槽の縁を乗り越えられないためにシャワー浴の方が2人いる。風呂が面倒で拒否される方には、「血圧を測りましょう」「お薬をつけましょう」等別な言い方で誘い、入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせて就寝時間を調整したり、日中、散歩や体操など適度に体を動かして頂き、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をファイルして閲覧できるようにしている。体調に変化等が見られた場合、訪問看護の連絡し医師の指示を仰げるようになっていく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、おしぼり丸め、野菜の皮むきなどお願いしている。食べたい物を伺い、献立に反映させてる。ドライブなどに連れ出し気分転換をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候に合わせて、散歩に出かけている。ご家族様の協力の下、外出に出かけている。	気候のよい時期には、ほぼ毎日散歩に出かけ、花の時期にはドライブ等に出かけている。管理者が買い物に行く際には利用者をお連れしたり、個別に衣類や嗜好品の購入に利用者とお連れしたりしている。デイハウスにボランティアが訪問する際には、同席し交流している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と一緒に買い物に出かけ、洋服を選んだり、食べたい物を選んで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方が、かけ方を忘れてかけられない時などは操作を一緒に行うなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真・観葉植物・花を飾ったり、音楽をかけたりして居心地のよい空間になるよう工夫している。	車椅子の方が利用しやすいように、トイレ入口の戸を外してカーテンにし、出入りしやすくしたり、浴室に新たに手すりを付けたりなど、環境整備を行った。廊下の壁には外出時の写真や手づくりの桜の花をつるし、明るく親しみのある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時々席替えを行い、利用者同士が交流できるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の馴染みの家具や布団など持ってきて頂くように努めている。 本人が過ごしやすいようにベッドの配置も検討して決めている。	居室入口には○様と表札をつけて、自分の部屋だとわかるようにしている。ベッドとタンスは事業所で提供しているが、ベッドの配置はそれぞれである。居室には洗面台が設置されており、テレビ、ソファ、ポータブルトイレ等はその人の希望で置かれ、本人が居心地よく過ごせるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりを設置し、安心して歩行ができるようになっている。 自室は表札をつけ自分の部屋だとわかるようにしている。		